

運輸区 とうとう 第五十二号

会社の福利厚生は大丈夫か？

男性の育児休暇取得は？

社会的にも推進されている男性の育児休暇ですが、この国はまだまだ「男は外で働き稼ぐ」「女は家庭を守る」という風潮から抜け出せず、取得率も

低いようです。若い社員からも「男が育児休暇取ってどうすんだよ」という声が聞かれます。家庭環境にもよりますが、よくよく考えれば、女性が出産し、不安を抱えながら子育てし

家事もこなすのは実は大変な重労働なのだと思うようになりました。



そんな不安を少しでも払拭してあげるための男性育児休暇であります。会社内では勿論要員の関係もありますが、それが理由で休暇を取りづらい雰囲気になってしまっただけでは、本末転倒かと思えます。誰でもいつでも気兼ねなく、育児休暇が取れる職場風土を作りましょう。

短縮行路は十分か？！

育児休暇から職場復帰した女性乗務員は、子供が3歳になるまで短縮行路（以前の時短行路）の担当（希望）となりますが、これも不満の声が多くあります。要は3歳になったら、普通の交番に入り、泊り勤務もあるということで、3歳程度では一人で置いておけるはずもないという尤もな理由があります。夫も同じ乗務員の場合には更に厳しい状況となり、当区でも数年前、勤務の調整が出来ずに離職という非常に辛い出来事がありました。「せめて小学校に上がるまでは・・・」は、ごく常識的な要望だと思いますが・・・

少子化問題にも関わる？

安心して出産し、その後の子育ても無理なくこなせなければ、この国が抱えている少子化問題も解決していきません。是非、職場全体で色々な議論を試みましょう。

うたてつ ノススメ 40

高原列車はゆく（岡本敦郎）1954年2月

汽車の窓から ハンケチ振れば
牧場の乙女が 花束なげる
明るい青空 白樺林
山越え谷超え はるばると
ララララ ラララララララ
高原列車は ラララララ行くよ

みどりの谷間に 山百合揺れて
歌声ひびくよ 観光バスよ
君らの泊りも 温泉の宿か
山越え谷超え はるばると
ララララ ラララララララ
高原列車は ラララララ行くよ

峠を越えれば 夢見るような
五色のみずうみ 飛び交う小鳥
汽笛も二人の 幸せ歌う
山越え谷超え はるばると
ララララ ラララララララ
高原列車は ラララララ行くよ

もしかしたらこれが最終回かもしれない。まだまだ紹介しきれない歌がたくさんあるが、この辺が潮時かなと・・・ご静聴ありがとうございました。

最終回はやはり明るく楽しくなれるような曲で締めくくろう。

暗く悲しい戦争体験から立ち上がり、国民の誰もが新しい平和な時代を望み「もはや戦後ではない」という言葉も出始める頃の歌である。

「りんごの歌」「青い山脈」「東京ブギウギ」等々、明るく前を向ける歌が流行ったのも必然であったのだろう。

作詞：丘十四夫、作曲：古関裕而（NHKの朝ドラで取り上げられた人）さわやかな高原を走る列車からの風景を歌ったもので、この他愛なさこそが平和の証なのだと思う。「牧場の乙女が花束投げる」なんて、どう考えてもスイスあたりの外国の風景を連想するが、作詞者は少年時代の原体験でもある磐梯急行電鉄を思い出して書いたそ

うだ。3番の「五色のみずうみ」は五色沼のことらしい。2番の「温泉の宿か」がちょっとメロディに乗せづらいなと思い、もう一度聴き直したら「いでゆのやどか」と歌わせるようだ。そりゃ誰も分かんわ！それにしても何て軽快でさわやかで、元気の出る曲なんだろう。こういった心がウキウキする曲を歌い、みんな辛く嫌な思い出を忘れようとしてたんだろうな。歌の力はすごいよ！だから面白いんだよ！うたてつ万歳！！